

2 各評価項目について

(1) 評価項目(1)および(2)について

保護者対象の評価項目「学校では『確かな学力』の定着に重点を置き、学習指導の充実に努めている」(94.9%)、児童対象の評価項目「先生の授業はわかりやすい」(95.9%)等、学習指導に関わる項目について肯定的に回答した割合は総じて高い評価となりました。特に児童対象の評価項目における「先生は一生懸命勉強を教えてくれる」では、肯定的な回答をした割合が99.3%に達しており、教職員の学習指導に対する熱意とともに、少人数指導や個別指導といった児童個々の学習進度に応じた指導が、多くの教職員の連携の下、実施された結果が評価されたと考えられます。しかしながらテストなどの結果に目を向けると、児童個々の学力差には大きいものがあり、継続して児童個々の学習意欲を引き出しながら、学習進度に合わせた指導を続けていく必要があります。

(2) 評価項目(3)について

保護者対象の評価項目「運動好き(体を動かすことが好き)な子に育っている」(83.1%)、児童対象の評価項目「東宮下小のみんなは、外で元気に遊んだり、運動したりしています。」(91.1%)等、運動好きへの指導に関わる項目について肯定的に回答した割合は総じて高い評価となりました。ただし、前年度比では保護者対象(87.9%→83.1%)、児童対象(95.8%→91.1%)ともに評価が下がっています。引き続き体育において、運動の楽しさを感じることができる授業の展開とともに、チャレンジ運動(業間の活動)や体育朝会といった様々な機会を通じて運動に触れる機会をつくるなどの方策を通じて、児童が運動機能の向上による自身の成長を感じ取れるようにしていく必要があります。

(3) 評価項目(4)について

保護者対象の評価項目「学校は、「自分の命は自分で守る児童」～」(98.3%)、児童対象の評価項目「先生方は、学校でけがをしないように指導してくれます。」(95.9%)等、学校の安全指導に関わる項目について肯定的に回答した割合は総じて高い評価となりました。また学校施設に関わる評価項目も、今年度トイレの改修工事や屋上防水工事等が実施され、肯定的な回答割合が高くなっています。施設面での改善点を維持できるように継続して安全点検等を行っていくとともに、保護者や地域から意見が上がっているグラウンドや遊具について、引き続き計画的な改善・改修を目指していきます。

(4) 評価項目(5)について

保護者対象の評価項目「保護者や地域は、学校教育に積極的に関わろうとしている。」(88.0%→90.6%)等、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から保護者公開行事を制限している中でも数値に改善が見られました。これは、例年行われている田植えから稲刈りといった地域と関わる学校行事に加え、6年のキャリア教育の充実により、地域企業との連携や学習の一環として野菜の育成や販売を行ったことなど、本校の教育活動の広報・周知が進んだ結果と考えられます。

3 保護者の主な自由記述内容について

- ・「あいさつが出来る子供が一部のように感じます。学校によっては、保護者を見かけると大きなあいさつをしてくれます。学校・保護者で、力を入れていきたいです。」といった御意見を頂きました。校内で改善に向けた方策を検討し、1月には児童会(委員会活動)の児童を中心にあいさつ運動の期間を設定しました。これからも引き続き改善を図っていきます。
- ・「様々な楽しい行事に参加できない保護者に「もったいないなあ」と思います。また在校生がいない地域の方も参加できたら良いなあとも思います。」といった御意見を頂きました。今年度は新型

コロナウイルス感染拡大防止の観点から保護者公開行事を制限している中での教育活動でありました。保護者および地域の方が東宮下小学校に対する理解と、協力が得られるように、今後とも教育活動の改善を図っていきます。

4 児童の主な自由記述内容について

- ・「「よい子のやくそく」に友達にお金を貸さないことをいれてください。」という御意見を児童から頂きました。児童の放課後の過ごし方について、児童間での金銭のやり取りや、おかしをおごる等の不適切な行動を指導したこともありましたので、児童に配付している学校でのきまりを記した「よい子のやくそく」について改善を行いました。

5 学校評議員・学校関係者評価委員会より（令和3年2月16日実施）

- ・今年度から質問項目が整理され、保護者・児童・教職員という三者の比較がしやすくなった。学校の実態のより正しい姿が見えてくることが期待できる。
→質問項目変更初年度のため、過去と比較できない項目があるが、経年により比較が容易になると思われる。
- ・児童の記述項目について、児童が学校のアンケートに正直な内容を記述している。児童が先生方を信頼してお話している様子が伺える。また、児童の記述を反映させて学校の「よい子のきまり」が改善されたことは、児童の主体による規範意識の向上につながるのではないかと。
→東宮下小の「よい子のきまり」は、児童の実態に合わせ毎年見直しを行っています。引き続き、児童の実態と共に「児童からの声」も大切にし、指導に役立てていきます。
- ・児童の実態として、持久走といった「走る・跳ぶ」などの基礎的な運動は一生懸命頑張っている。一方で、ラケットを使った競技など器具を使った運動には経験不足を感じている。学校でもそのような機会があると良い。（※「家庭内やPTAのイベントでも器具を使った運動に触れる機会を設けることを検討できるのではないかとのご意見もありました。）
→児童の運動に対する高い興味・関心を生かし、体育授業をはじめ、業間休みや特別活動（たてわり集会等）において、さまざまな運動に触れる機会を設定していきたい。
- ・児童のあいさつについて、登校時にこちらからあいさつを続けたところ、徐々に児童の方からもあいさつができるようになってきている。特に、6年生の学習で行った「野菜販売」の活動のあたりから、高学年を中心として相手に伝わるあいさつに変わってきた。
→学習を通じて学んだことが、生活の中でよりよく活かされるというサイクルを継続していけるように、来年度も引き続き教育課程の見直しを図っていきます。

6 おわりに

保護者・児童・教職員の「学校をよりよくするためのアンケート」の結果について、校長としての考え・改善の方向性についてまとめ、学校評価委員会での検討を経て、ここに報告いたします。

皆様の学校評価結果につきましては、令和3年度の学校経営に生かし、信頼される学校づくりに一層努めていきます。令和2年度も残り少なくなりました。保護者の皆様の本校の教育活動への御支援・御協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。